地域とのコミュニケーション情報発信紙

敬老園便り

敬老園本部／〒386-0027 長野県上田市常磐城2256-1 2F　TEL.0268-28-1170（代）

第23号
平成31年
1月1日発行



新年のご挨拶

20年後、外国人介護労働者が3割必要に

新年明けましておめでとうございます。

5月、新元号に変わる年を迎えました。本年も宜しくお願い致します。

新年早々ですが、少子超高齢社会の現状・今後について、事業者（現場）の声として以下を述べさせて頂きます。敬老園、法人開設から47年目を迎えますが7つのライフステージ（医療、介護、教育、保育、食育・飲食、生きがい対策、住まえ替え支援）を掲げ一生懸命今日まで取り組んで参りました。取り巻く環境の変化が急を告げていて事業者・医療・介護サービス利用者等、「自立」をテーマに生きていく厳しい時代（環境）になってきたことをお含みおきいただけると幸いです。

次ページに続く

敬老園の理念

少子高齢化の進展に伴う様々な問題に、地域に根ざした社会福祉法人として三つの理念を掲げ、役職員が一丸となり社会貢献を致します。

敬老園は人間の尊厳を大切にし、柔軟な心をもってあらゆる可能性のある質の良い介護を目指します。

敬老園は公平公正な施設運営を旨とし、変化する時代を的確にとらえ社会に貢献する健全な経営を目指します。

敬老園は心と心の結びつきを基本とし、取り巻く全ての関係を誠意と熱意をもって構築することを目指します。

高齢者が働き手の主役に

10月消費増税が予定され、8%から10%になり、一層の生活防衛（節約）を求められることになりました。人生100年、70歳定年の時代に突入し働き手として高齢者が主役となりつつあります。限界集落（65歳以上が50%）、消滅集落も増えて自治会・消防・お祭りごとなどの活動が困難となっている集落が珍しくなくなりました。各自治体は、「コンパクトシティ」づくりを急がなければなりません。現状、介護の現場では人材不足が日々深刻化し、多くの事業者は事業の継続が困難になりつつあります。

現時点でも、退職者の補充がままならなくなっており、この10年間に介護の仕事に就こうとする若者も極端に少なくなりました。このままでは、20年後には介護従事者の3割は外国人労働者に依存しなければ要介護者約200万人が「介護難民」になってしまうでしょう。危惧していることとして今、日本にきて働いている外国人の約130万人が抱く日本の印象は悪く、劣悪な環境、賃金の不払い等が多いと報道されています。

外国人介護労働者育成には、長時間と多額の費用が必要

政府は、今年4月から介護分野にも外国人実習生を多く受け入れる方針です。当法人が9年前からEPA（経済連携協定）で、相手国が選出した優秀な看護師のインドネシア人・ベトナム人を複数人受け入れてきた経験から、専任の教育体制が必要で言葉・技術習得に年単位の時間とお金（給与ほか）が必要です。簡単に介護の現場を任せることは危険であり、質の低下・介護事故防止に大変苦労してきております。元々生活の中に「介護の概念のない」外国人に、言葉・文化・宗教・食事・交通ルール等を身に着けてもらうことは大変なエネルギーと大金を要します。

現在、当法人が受け入れているEPAベトナム人看護師（今年度受け入れ含め18名）が、介護福祉士の国家資格受験までに要する費用は4億円ほどで、一人約2千万円余と高額であり、資格取得しても当法人で働くかわからない状況でも受け入れざるを得ない現実があります。

外国人技能実習生、質の担保がない中で受け入れも事業者負担でどこまで可能か?課題の多い船出、政府が早急に国費で教育システムを構築しないといけません。いずれにしてもトラブル続出は避けられないでしょう。また、社会保障費抑制策により事業者は経営が年々厳しくなっており、外国人介護労働者を受け入れできない事業者が多いと思われます。

介護難民対策、政治の責任が問われる年号に

制度・報酬改定の度に訪問・通所関係の報酬が下げられ、一方利用者の負担が増え、必要なサービス利用が手控えられることも心配されます。2025年、要介護者は800万人を超え、認知症の方も約1000万人が予想されます。「自助・共助・公助」が求められる時代、少しでも「明るい老後」が実感できますよう今年も頑張ります。



理事長 斎藤 俊明

社会福祉法人
敬老園
[本部]〒386-0027 上田市常磐城2256-1
E-mail jinji@keiroen.or.jp
■法人本部 人事・教育研修部人事課【担当／後藤・山口】
0120 FreeDial 0120-70-1651
社会福祉法人敬老園 ウェブ検索
8:30～17:30



現役職員が本気で語るカイゴとは?
↓動画をCheck!↓

一所で一緒

チーム敬老園



No.9

こうしゃ敬老園
デイサービスセンター　介護職
山本　優利奈



平成30年4月に新卒採用で入職。「敬老園で働きたい!」という夢を叶えた「今」の気持ちをお届けいたします。

就職から半年が経過しますが、実際に働いてみて気付いたこと（働く前のイメージと違う事）を教えていただきたいです。

いつも丁寧に支援をしていた敬老園の職員のイメージがありましたので、動作の全てを支援することがより良い支援だと思っていました。実際は、ご利用者の持っている能力を活かす支援が大切だと気付きました。デイサービスは、ご自宅で生活をされていらっしゃる方がご利用されるため、今ある能力を維持することが住み慣れた環境で生活を継続することに繋がると思います。ご自身でできる動作を見守り、支援が必要かどうかを見極めていくことを意識しています。その判断を正確にするためには、ご本人の能力を把握することや察知すること、職員同士で情報を共有することが必要であると感じています。また、能力を引き出すためにどのような声掛けをすれば良いのかを日々、先輩職員の姿から学んでいます。

デイサービスの仕事で「やりがい」を感じる瞬間を教えていただきたいです。

「ありがとう。」と感謝の気持ちを聞いた時に一番のやりがいを感じます。

例えば、温泉を活用したデイサービスの大きなお風呂で「家では、なかなかゆったりとお湯につかれないけど、ここは気持ちがいいねぇ。職員さんもいるから安心してお風呂に入れるよ。ありがとう。」と言っていただいたことがありました。

また、目標にする先輩がいることも「やりがい」の1つだと感じています。特にご利用者の気持ちを晴れにする声掛けが先輩の皆さんは、本当に上手です。将来、なりたい自分をイメージできる環境であることは幸せなことですし、こうしゃ敬老園に勤務して本当に良かったと思っています。

敬老園便り第19号（平成30年1月1日発行）にて掲載した内容です。実は、入職前の山本優利奈さんのストーリーです。今、同じ敬老園の仲間として一緒に働いていることを本当に嬉しく思います。

私たちは多種多様な職種がそれぞれの役割を果たすことで利用してくださる方に「敬老園があって良かった」と思っていただけるようハツラツと毎日を過ごしています。

時事その2　私が敬老園を志望した理由



◎こうしゃ敬老園デイサービスセンター
中野市大字竹原字中島1135-1

先日、採用面接にお越しになられた学生のAさん。

採用担当職員／敬老園を志望した理由を教えていただいてもよろしいですか。

Aさん／私の祖母がこうしゃ敬老園のデイサービスを利用しています。いつも送迎に来る職員さんが笑顔でハツラツと働く姿に憧れて、私も同じ職場で働きたいと思いました。

来年の4月からAさんは憧れを感じた先輩職員とご利用者に寄り添ったケアと笑顔で一緒に働きます。



作品名「バラが咲いた」



▲滝沢清子様。娘さんと一緒に!

News その1

大正・昭和・平成の「道」を歩んだ感性が解き放つ芸術

今年で7回目を迎えた「中信地区作品展」。中信地区11事業所と地域の方々による作品400点が展示されました。

有料老人ホームうつくしがはら温泉敬園に入居されている滝沢清子様は、自身が出展された作品を娘さんと一緒に鑑賞しておられました。

大中小の色紙が彩り鮮やかに折り重ねられた作品は、どのようにしたらバラが立体的に見えるか悩んでいたところ「1つ1つを重ね合せる」というひ孫さんのアイデアで完成に至りました。なんと、完成までに4ヶ月かかったそうです。会場で自身の作品が受賞したことを知った滝沢様は、「まさか自分の作品が賞をいただくなんて。本当に嬉しいよ。」と嬉しさのあまり涙されていました。

母の作品を嬉しそうに見つめた娘さんは、「本当は、私が母と一緒に暮らさなければならないのに…。入居してから日に日に母の笑顔が素敵になっていき、もっと早く敬老園さんにお世話になれば良かった。本当に皆さんに良くしていただき感謝しています。」と優しい笑顔で話しをしてくださいました。

その後、素晴らしい作品の数々をお二人でゆっくりと鑑賞され、穏やかな時間を過ごされました。お帰りになる前に「来年は、もっと良い作品を披露できるように頑張ります!」と早くも気持ちは来年に向けての準備に切り替わっておられました。

見事な作品をご利用者と一緒に作り上げるまでの「道」。作品展開催というゴールまで数か月前から準備をしてきた「道」。そして、未来に向けて切り開かれていく「道」。

それぞれに歩んだ道は、違うかもしれませんが、同じこの場所にそれぞれの道がたどり着いたことで「やりがい」や「生きがい」、「達成感」の共有があると思いました。

大正・昭和・平成という道を歩まれた人生の大先輩の感性から解き放たれる作品を目の前に「自分のやりがい」「自分の歩む道」というものを考えるきっかけとなる1日となりました。

News その2

EPA介護福祉士候補者、上田千曲高校生と交流

現在、敬老園にはEPAベトナム人介護福祉士候補者10名（うえだ敬老園6名：しものごう敬老園4名）が勤務しています。一生懸命に介護を学ぶ姿が職場の雰囲気をより良いものにしており、日本の文化や食事、日本語など毎日が新しい体験となりますが受け入れ施設職員の温かいサポート体制で笑顔の毎日を過ごしています。

福祉について学ぶという共通点からEPAベトナム人介護福祉士候補者と上田千曲高校生活福祉科の2年生及び1年生が文化や言葉などの「ちがい」を認め合い、支え合う関係となる「多文化共生社会」について考えることを目的として交流会を行いました。

まず、グループに分かれてお互いの言葉や文化について紹介し合いました。最初は、緊張した様子でしたが、話し始めて数分で教室中が笑い声であふれていました。その後、2年生は介護技術（浴衣の着脱）交流。1年生は、日本の昔ながらの遊び（かるた・あやとり等）で交流をしました。









今回が初めての交流の機会となりましたが、今後も福祉についての考えやお互いに教えてもらいたいことなどを意見交換しながら「未来の福祉を担う仲間」として絆を深めていきたいと感じました。



News その３

多くのことを学んだ、今年の人権研修会



▲講師の長岡秀貴先生

平成30年度　人権研修会
◎テーマ／「誰も知らない若者たちの話
　　～日本は本当に生きづらくなったのか?～」
◎講　師／長岡　秀貴先生
　　（NPO法人侍学園スクオーラ・今人）

私たちは、ご利用者をはじめ関係する全ての「人権を尊重する立場」で仕事をしているため毎年、人権意識の高揚を目的とした人権研修会を開催しています。今年は、長岡秀貴先生の考え方や生き方についてお話を伺いたいという職員たっての希望から講師としてお招きしました。

【感想】

●「ひとりの百歩ではなく、百人の一歩」という言葉がとても心に残りました。現在ユニットリーダーを担っていますが、職員全員で動く一歩を大切にしていきたいと心から思いました。自分の考えで百歩を稼ぐより、皆で考え、全員で貴重な一歩を踏み出すことを目指していきたいと思います。

●学生時代に目標を持てず苦しんだことを思いだしました。そして現在に満足している私は上司や仲間に助けられているからだと思います。私自身がそう思われる職員に成長していきたいと思いました。

●やりがいを無くして転職を繰り返し、今の職場にいきついた職員がいます。管理者として幸せに働く、喜びを感じられる職場を自ら作っていきたいと心に火がつきました。

●生きる意味を考えるきっかけになりました。人を疑わず、思考や習慣を疑うという長岡先生の言葉を心に止めて生活しながら、生きる意味を改めて考えていきたいと思いました。

●長野県が未成年の自殺者が第１位であることは初めて知りました。学生の時に学校に行かないことが多かったですが、その時に周りにいてくれた人達のお蔭で今働くことができています。なかなか大きなことはできませんが、まずは自分を大切に周りの人を大切に生きていきたいと思いました。

●人の喜びであれという言葉に共感しました。誰かを喜ばせる自分は誰かの喜びになりたいと思いました。



News その4

優しい気持ちは、温かい ～車椅子の寄付をいただく～

歌謡教室を主宰し、歌手と作曲活動をされている宮下賢様から車椅子3台の寄付をいただきました。宮下様は、平成10年から上田市内で生徒100人とチャリティーコンサートを開催し、今年で21年目となります。その収益で地域の福祉施設への寄付を続けられており、寄付総額は670万円を超えています。敬老園も毎年、温かい気持ちをいただいており、寄付をいただいた車椅子は13台を数えます。

宮下様は、「直接、福祉の現場にお届けすることで少しでも役に立ちたい。」と今後も活動を続けていきたいと話されました。斎藤理事長は、「利用者が1日約3600人いらっしゃる中で移動手段は、車椅子が多いため本当にありがたいです。」とお礼の気持ちを込めて感謝状をお送りしました。



▲斎藤理事長（左）と宮下賢様（右）



News その5

平成30年度 喀痰吸引等研修開催





喀痰（かくたん）吸引等研修は、介護職員が、一定の条件の下でたん吸引等の実施が可能となったことを受けて、平成24年4月から始まった研修です。医療機関だけでなく、高齢者施設や障がい者（児）施設にも喀痰吸引・経管栄養の行為を必要としている方々が生活しています。たんの吸引などを必要としている方も増えている現状から、敬老園では平成25年度から研修を始め、135名（平成29年度末現在）の有資格者を法人内外問わずに福祉現場へと輩出しています。地域のご利用者の安心した生活を支えることができる福祉人材の育成を実践しています。

「旨みの強い、おいしい敬老園米」

法人本部 栄養部
上田市常磐城2256-1

敬老園では、「食」への思いのひとつとして、敬老園ご利用者の方においしいお米を食していただきたいと考えています。そのために平成16年度から「敬老園米づくり」に取り組んでいます。

敬老園米は、東御市と佐久市北西部浅科地区にある契約農家8軒の水田でつくられたこしひかり米を、専門の会社で温度、湿度、衛生管理をして、納品直前に精米し施設に届けられています。契約農家8軒のある地域は、北に浅間山、南に蓼科山を望む丘陵地帯です。長野県ならではの内陸性の気候により昼夜の寒暖の差が大きいことは、旨味の強いおいしい白米の出来る大切な条件です。

また、肥沃な粘土質の土壌により、この地域の白米は、全農のおこなう品質検査でも毎年優良米と評価されています。

田植えや稲刈りの時期には、敬老園米でにぎったおにぎりを持ってご利用者の皆さんと契約水田にドライブに出かけます。田んぼのあぜにすわり、爽やかな風のなかで、澄んだ空気と一緒にいただくおにぎりの味は最高です。

契約農家の方が丹精込めてつくった敬老園米をふっくらと丁寧に炊き上げ、これからもおいしいお米をお出ししていきます。

法人本部 栄養部　小林美緒



敬老園米は、敬老園友の会会員様・敬老園職員にも販売しています。
（写真のパッケージは、贈答用となります。）

i楽i 食 がくしょく
安心して楽しくおいしい食事を
お召し上がりいただけます。
バリアフリーレストラン楽食
上田市常磐城2256-1 敬老園本部1階
■ご予約・お問い合わせ先
☎0268-28-0141（おいしい）

